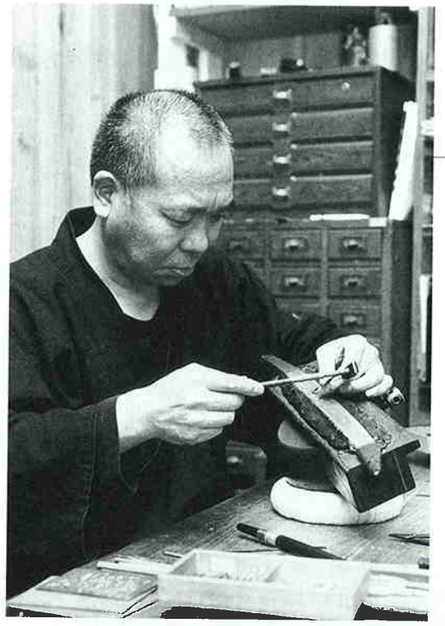
「よいものを作りたい」その一念だけで無心に刀と向き合います

橋本　琇巴（しゅうは）さん
（刀身彫刻師）


見る者がじっと息をひそめてしまうような、作業風景。橋本さんは5月31日（日）に博物館の企画展「埼玉県名刀展」の中で、刀身彫刻の実演を行ないます。素晴らしい作品も展示されますので、ぜひ足を運んでみてください。

「刀の線には全く無駄がなく、その美しさは機能美です。」とおっしゃるのは、刀の不思議な力に魅了され17年前に刀身彫刻の世界に入った橋本さん。鏨（たがね）を使う基本として、昔から刀装具に多く使われる魚子（ななこ）などの模様を同じ状態で付けていく単調な作業を、一日中続けられるように練習したそうです。そしてその鏨などの道具は全て自分で作ったもので、つねにそれを手入れして使うのだそうです。橋本さんの作業場にも小さく仕切られた引き出しがあり、中に丁寧に手入れされた鏨が何百本も入っています。その一本一本は同じもののように見えますが、彫り方によって全て使い分けられています。また同じ種類の鏨でも、その道具を作った本人にしか分からないような微妙な違いがあり、刀身彫刻師は自分の道具でしか仕事ができないのだそうです。刀身彫刻はこの世に一本しかない刀を扱うのですから、万が一にも失敗が許されません。必ず、その刀を作った刀鍛冶に「これからこの刀に彫らせていただきます。」と報告してから彫り始めるそうで、刀に対する刀鍛冶の、彫刻師の、そして持ち主の熱い思いが伝わってきました。一本の刀を仕上げるのに2～3か月かかるそうで、気持ちを落ち着け、頭の中を真っ白にして慎重に一刀一刀彫り進めていきます。何か心配ごとや悩みごと、怒りなどがあるときには、絶対に仕事に手をつけられないというお話にもうなずけるような、気の張る作業です。「失敗を恐れない人でないと、刀身彫刻師にはなれないですね。」と橋本さんは笑い、「もっといいものを作らなければ。」と刀に向かいます。「刀というのは、それ自身が強いものなんです。だから、それを扱う人も素直に刀に対峙（たいじ）できなければならないし、ほどこされる彫刻も刀と一体にならないといけないんです。」と静かに思いを語ってくれました。

精密な彫刻がほどこされた脇差。

私の趣味

旅行

菅井きくさん（南入曽）
オーストラリアの白砂の中で。

旅行の醍醐味（だいごみ）というのは、何と言ってもいろいろな珍しい景色を見たり独自の歴史に触れたりすることができるという点ですね。私は食べ物にはあまり興味がなくて、どちらかというとその土地、国の自然を感じることが好きなんです。今77歳で、旅行に行き始めたのは15年程前のことですが、一月に2回位は旅行に行っています。先日も能登半島まで行ったばかりです。駅員さんが、親切に行き先までの時間や乗り継ぎなどを教えてくださるので、一人で行き方なども調べ、どこへでも出掛けます。ただ、バスでの国内旅行は乗り降りが多くゆっくりできないので、少し疲れるときがありますね。その点、1月に行ったオーストラリアは良かったです。妹や甥（おい）と6人でパースという所に行ったのですが、日本人はほとんどいなくて、本当にゆっくりとした旅を楽しむことができました。英語ができなくても不安なことはほとんどありません。そして何よりうれしいのは、旅先でいろいろな人に会って親切にしてもらったときですね。これからも、いろいろ経験した人生に、さらに華をそえられるよう、旅を楽しみたいです。

REPORTER'S EYE

【リポーター】
斉藤良子さん（上広瀬）

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

「市民とともに育む消防」このモットーを胸に市民生活を守ります

狭山市消防本部・消防署
上奥富1172、☎953―7112（消防総務課）
☎953―6177（消防署）・☎953―7111（通信指令課）

いざというときだけでなく安心な生活の知識の普及も消防の大切な役割です

消防と聞けば誰もが「119番」と思い浮かぶでしょう。でもその番号を実際にかけたことがある人は少ないと思います。できればダイヤルすることなく生活したい119番ですが、あなたは実際に通報しなければならない事態に陥ったとき、正確に迅速に対応できる自信がありますか。

通報の中には、「早く来て!!」と繰り返すばかりで住所が言えなくなる程動転してしまっているかたもいるそうです。また、消火器があるから安心していて、実際火事のときに使い方が分からずに、そのまま火の中に投げ込んでしまう人もいるそうです。こんなことにならないよう、普段から知識を身に付けておくことも必要ではないでしょうか。

消防の中枢、通信指令課。地図などが瞬時に出てくるコンピューターで通報を的確に把握します。

消防本部では煙内避難や初期消火などを体験できる防災体験コーナーが新しく設置されました。また、自治会やPTAなど、ある程度の人数が集まれば、救命講習会なども開催してくださるそうです。初めて緊急事態に陥った人と、訓練で経験していた人では、対処の仕方が全く違います。例えば自宅で家族の誰かが急病になったとき、あなたは救急車を呼んで、到着するまで何もしないで待っていますか。普通救命講習会に参加していれば、スムーズにとまではいかなくても「呼吸を確保してあげなければ。」などと応急処置が思い浮かんでくるのではないでしょうか。また、通報も経験者と初めて呼ぶ人とでは、情報を的確に伝えられるかどうかに差が出るそうです。

そしてもう一つ大切なのは、日頃から近所付き合いをしておくことだと思います。自分の子どもが大けがをしたとき、あなたがその処置に追われていたら、誰が救急車を呼んでくれますか。そんなとき隣りのかたに通報をお願いできたら、自分一人で処置するよりも早く救急車が到着するのではないでしょうか。また、子どものけがで動転してしまい、的確に通報ができないかもしれません。そんなときも隣人なら客観的に事態を把握し、落ち着いて通報できるのではないでしょうか。

消防のかたは、私たち市民が気軽に消防本部を訪れ、防災や救急などの知識を身に付けてもらえたらいいですね、と話してくれました。市民が身近に感じられ、頼れる消防であることが目標だそうです。私たち市民も、責任を持ち、勇気を持って大切なものを守れるよう、消防本部の最新の機器や、的確で親切な情報を大いに利用し、地域からけが人や火事を出さないようにしていきたいと思います。

初期消火の基本、消火器を使った消火。消火器の使い方をていねいに教えてくれます。